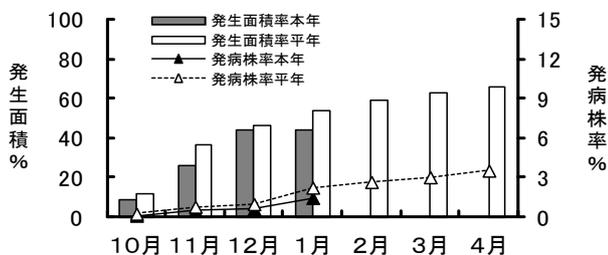


平成25年2月4日

高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)  
野菜類ダイジェスト版

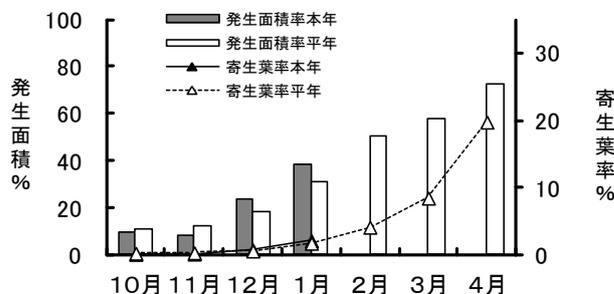
● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)における黄化えそ病の発生推移

ミナキイロアザミウマ 発生量: 平年並

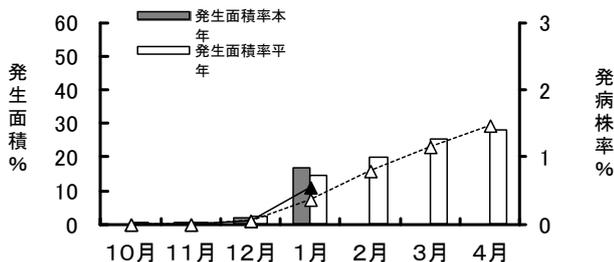


キュウリ(抑制・促成栽培)におけるミナキイロアザミウマの発生推移

黄化えそ病は平年並の発生です。今後は気温も徐々に上昇してきます。既発ほ場では、発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫のミナキイロアザミウマの防除に努めてください。

ミナキイロアザミウマは、平年並の発生となっています。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難になることから、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

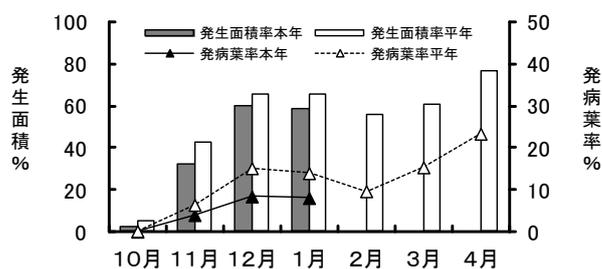
つる枯病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるつる枯病の発生推移

つる枯病は、全体的には平年並の発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は低め、降水量はやや多く、日照時間は平年並と見込まれます。ハウス内を締め切ることによって換気が不十分になると、現在の発生状況からやや多発生で推移する可能性があるため、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

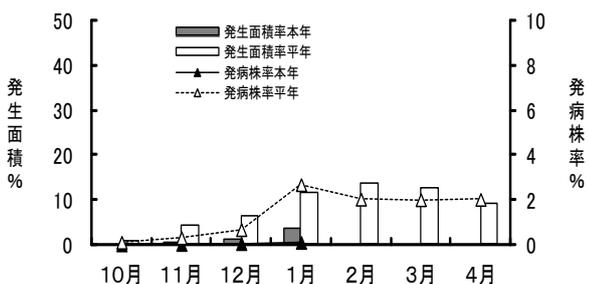
べと病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるべと病の発生推移

べと病は平年並の発生となっています。今後も、平年を超えるような大きな増加はないと思われませんが、蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)における褐斑病の発生推移

褐斑病は全体的に少発生となっています。本病は、蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見し、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

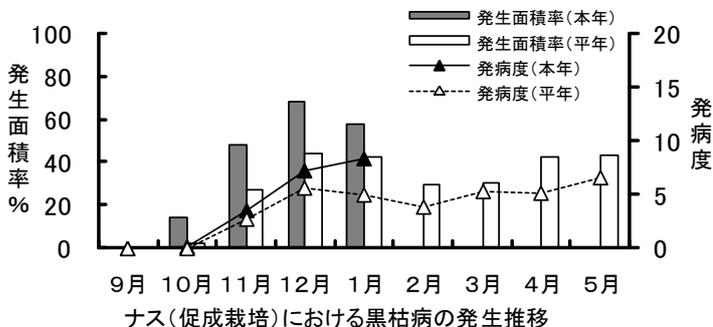
今年度は県内全域で少発生であり、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われませんが、つる枯れ病と同じくハウス内を締め切るなど、換気が不十分となるような多湿条件下で発生しやすいので、注意が必要です。

平成25年2月4日

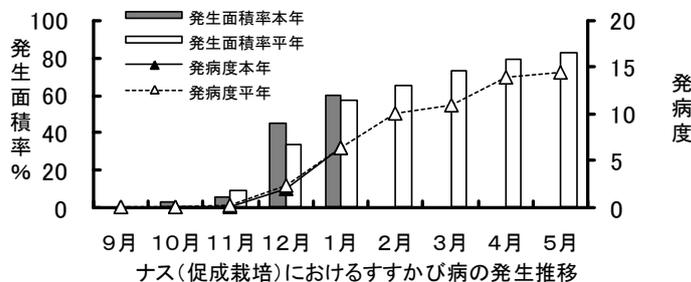
高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)  
野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

黒枯病 発生量: 平年並

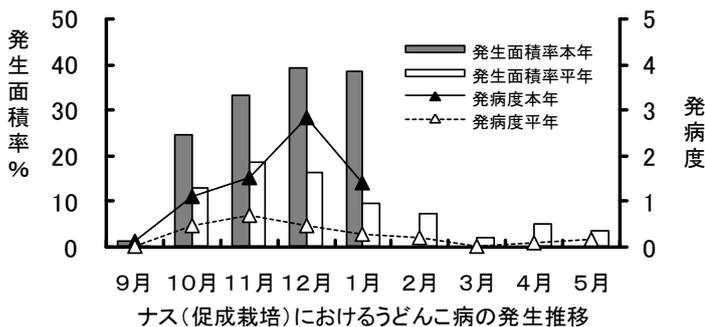


すすかび病 発生量: 平年並

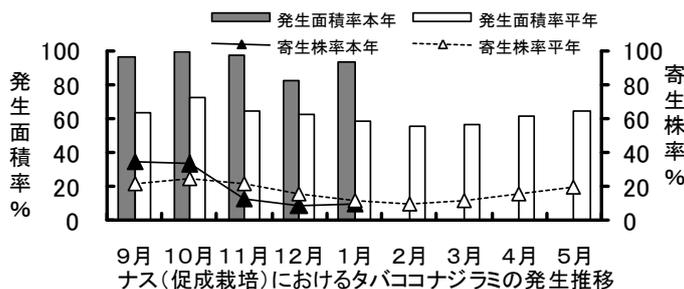


黒枯病、すすかび病ともに県中央部で発生面積が多く全般的にも平年並みの発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温はやや高め、降水量は多く、日照量はやや少ないと予想されており、発生が助長される恐れがあります。両病害ともに蔓延すると防除困難となるので初期防除に努めてください。また、急激な温湿度及び肥培管理は草勢低下を招き、病勢を進展させるので避けましょう。

うどんこ病 発生量: 多



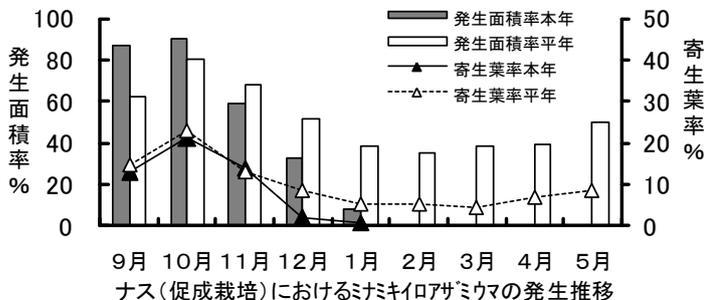
タバココナジラミ 発生量: やや多



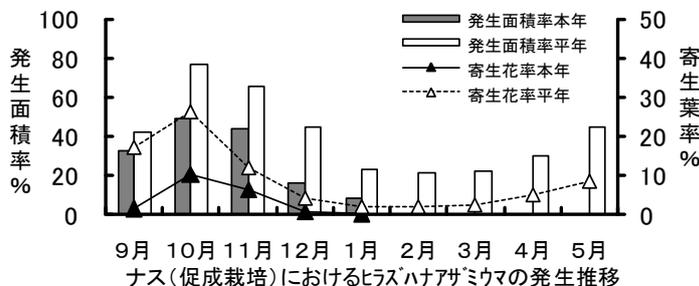
うどんこ病は県東部と西部で多発生、全般的にも多発傾向で推移しています。ハウス内の温度上昇に伴って病勢を助長することがないように、適度な温湿度管理と草勢の維持に努めてください。

タバココナジラミは県東部から中央部にかけて発生が多く、なっています。天敵導入ハウスで発生が多くなる場合には、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除なども必要な場合があります。

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 少



ヒラズハナアザミウマ 発生量: 少

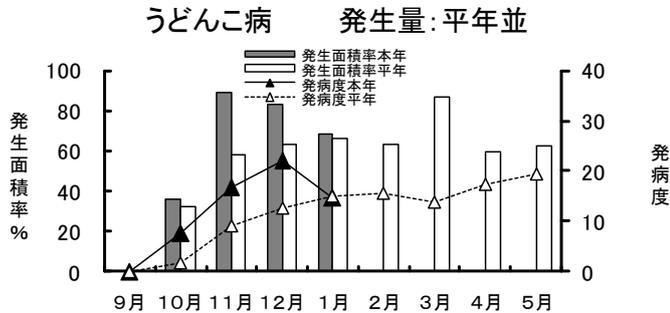


アザミウマ類は秋以降、発生面積・程度ともに低下し、県下全域で平年より少発生となっています。主なナス産地である県東部を中心に、天敵の定着により寄生密度を低く抑えています。ミナミキイロアザミウマが発生している場合は、ハウス内の温度上昇に伴って果実被害の増加が懸念されます。薬剤防除にあたっては、感受性低下を防ぐために同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避け、丁寧な散布を心がけてください。

平成25年2月4日

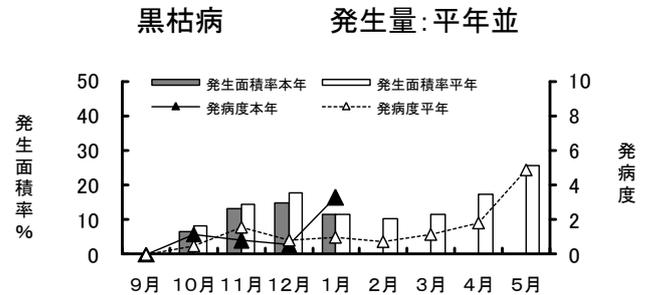
## 高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月) 野菜類ダイジェスト版

### ● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

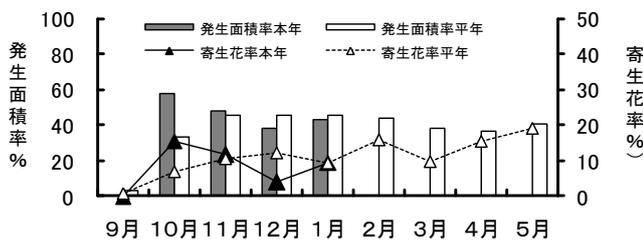
全般に平年並の発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温はやや高め、降水量は多く、日照量はやや少ないと予想されています。現在の発生状況が続くと予想されますので、予防散布及び初期防除に努めてください。硫黄くん煙器を設置している場合は、状況に応じて稼働時間を調節しましょう。



ピーマン・シトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

県東部と中西部では少なめ、全体では平年並みの発生傾向が続いています。向こう1ヶ月予報からは、発生が助長されることが予想されます。蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。なお、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

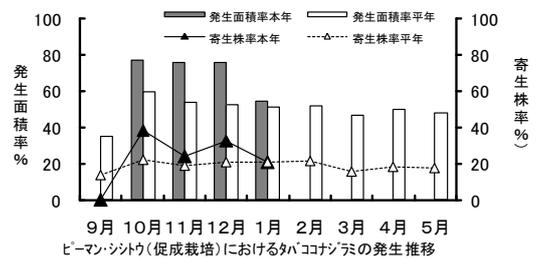
### ミナキイロアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるミナキイロアザミウマの発生推移

全般的に平年並の発生となっています。今後も同程度の状況で推移すると予想されますが、天敵の状況に注意するとともに、薬剤散布を行う場合には、天敵への影響と抵抗性の発達を回避するよう、十分考慮して使用薬剤を選定してください。

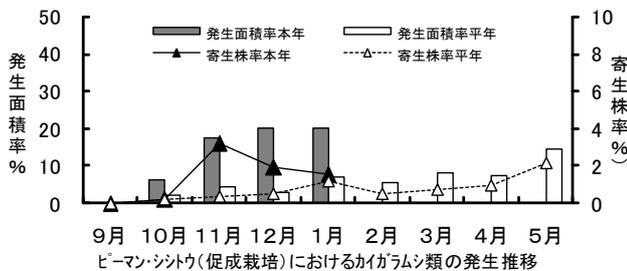
### タバココナジラミ 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

全般的に平年並みの発生となっています。スワルスキーカブリダニがほとんどのほ場で導入されており、定着が確認されているハウスでは、コナジラミの成虫が低密度で見られるくらいなら、問題とならない程度と考えられます。防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

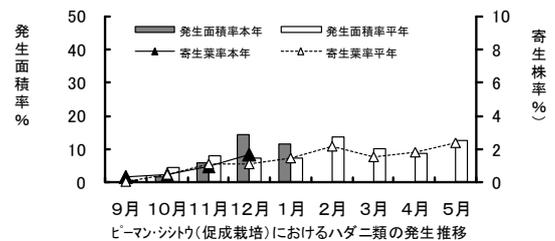
### コナカイガラムシ類 発生量: 多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるカイガラムシ類の発生推移

県東部と中央部で発生が多く、全体でも面積、寄生株率ともに高い水準です。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの対策に心がけてください。常発傾向にある天敵導入ハウスでは、本虫に有効な天敵の導入も検討してください。

### ハダニ類 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

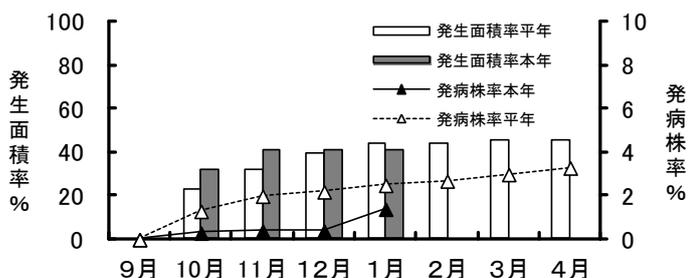
県中央部で発生面積が多くなっており、全体でもやや多発傾向となっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

平成25年2月4日

高知県病害虫発生予察1月月報及び予報第11号(2月)  
野菜類ダイジェスト版

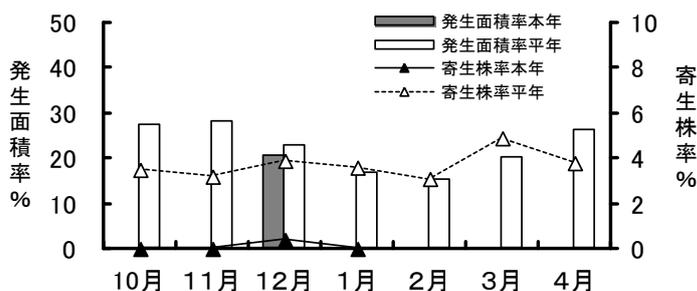
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

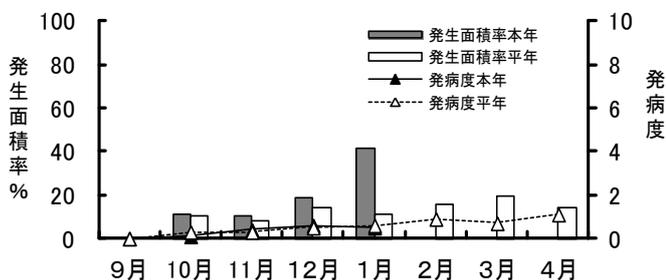
タバココナジラミ 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

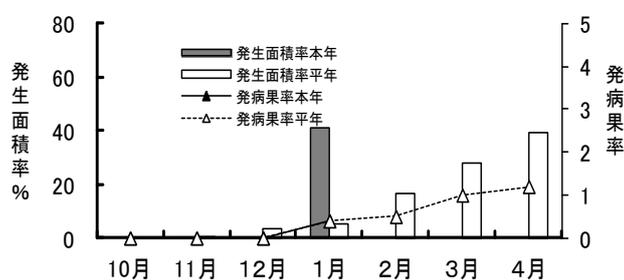
黄化葉巻病の発生面積は平年並で推移しています。媒介虫のタバココナジラミの発生面積が少なくなっていることから、急激な病勢の進展は見られないと考えられますが、施設内での増殖や媒介虫の飛び込みに注意を払ってください。併せて、既発ほ場では新たな発病株の早期除去に努めましょう。

すすかび病 発生量: 多



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

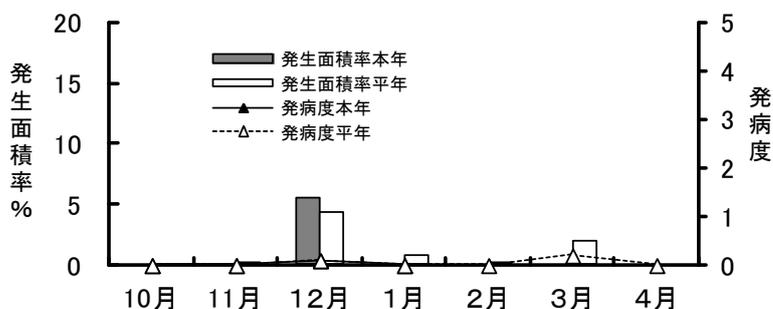
灰色かび病 発生量: 多



トマト(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

すすかび病、灰色かび病ともに平年より多発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は低く、降水量はやや多いが、天気は平年に比べ晴れの日が多いと見込まれます。本病はハウス内を締め切るなど換気が不十分となるような多湿条件で発生しやすくなることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。

疫病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における疫病の発生推移

疫病は平年に比べ少発生となっています。今後も急激な病勢の伸展の可能性は少ないと思われませんが、多湿条件で発生しやすいので、温度管理や湿度管理を十分に行い、適正な温湿度管理に留意してください。